

様式 4

令和 5 年度 学校運営協議会評価報告書 2

鳥取県立倉吉養護学校
 学校長 中家 岳史

評 価 日	令和 6 年 2 月 2 2 日 (木)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策
<p>1 重点目標の達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究部に「学部ごとや全体の授業公開をすることで表現力の向上をめざした授業の工夫」とあるが、全クラスで授業公開をされているのか。また外部の方からの評価をしてもらうことも必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の研究の目的としては、授業者と参観者が授業について建設的に話し合うため、校内の全クラスでの授業公開となる場の設定であった。外部からの評価については、大切な視点であり、今後も授業公開を行っていきたい。 	
<p>2 目標達成のための取組結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> B 高等部で、一人一台端末を利用して、生徒が学ぶことが楽しいとの反応があったとのことである。実際にタブレットで宿題が出されたことで生徒が筆圧を気にしなくてよかったとの声も聞いた。例えばホームページを活用した宿題を出す等、保護者とも連携することも大切である。 保護者宛文書等、一人一台端末を利用してペーパーレス化を進めてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の ICT 機器の活用について、保護者研修会を開催して、環境を整えている。更に保護者との連携を深めていきたい。 現在は生徒のアドレスということもあり、現在、宿題等やりとりは可能であるが、保護者宛文書は送信していない。 	
<p>3 具体目標の達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> この学校評価の達成状況で、評価基準は県で統一されているのか。他の学校とも共有しながら、教育のレベルを上げていくことが必要だと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準は、A：十分達成（100%）、B：概ね達成（80%）等、県で統一されている。各特別支援学校でも学校評価についてはホームページに掲載・公開されている。 	
<p>4 目標達成のために取り組んだ具体方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部で、「一人一台端末を利用した学びを通して、 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末は、家庭で 	

周りの人とのやりとりができる生徒の育成」についてはこれからの子どもたちにとって、大切な視点であるが、アプリの利用やネットでの購入等、家庭での活用についての課題も含まれる。学校での学習をふまえて、家庭との連携が不可欠であるが、学校としてどう取り組んでいくのか。

- ・「いつでも、どこでも、誰とでも」コミュニケーションをとれる力の育成は大切であるが、A部門としてのまとめた視点だけでなく、教職員自身がそれぞれの子どもの発達段階を意識して、学部が上がるごとに社会を意識した実践をしてほしい。
- ・早朝ボランティアにしてもボランティアの人数が集まらない現実もある。地域にはこのくらようって何なのという理解されていない実態がある。ただ、人材は豊富で地域に密着した取り組みや交流等も進めていけば、授業等でも協力してもらえるのではないか。

5 その他

- ・学校自己評価について、各委員に事前に配布されているので、今後は学校が委員に説明する時間を削り、協議する場に充ててはどうか。

の利用が前提であるが、各家庭での反応は様々である。例えば、子どもが特定の画像を検索して困るという保護者の声があった。学校でもSNS等の利用もふまえて、情報モラルの学習を徹底していきたい。来年度は、高等部では情報を教育課程に位置づけて週2時間設定していく。

- ・社会とのつながりや中学生として、高校生としてという視点等、発達段階に応じて、教職員自身が意識を明確にし、取り組みを考えていきたい。
- ・学校としても学校運営協議会の委員とも連携しながら、協働した取り組みを進めていきたい。
- ・学校運営協議会で熟議する時間は貴重であり、今後評価に関わる説明は省いていきたい。